

# 大手と共同開発加速

## ジャパンメディック 第一三共と外用剤

医薬品製造のジャパンメディック（富山市横越、前田康博社長）は、OTC（薬局・薬店向け）外用剤で大手メーカーとの共同開発やOEM（相手先ブランドによる生産）を加速している。第一三共ヘルスケアが5月に発売した消炎鎮痛剤「パテックス」ブランドの2製品の製造販売元となり、開発と生産を手掛けて



ジャパンメディックと第一三共ヘルスケアが共同開発した「パテックス」シリーズの新製品

いる。今後も大手とのパートナーシップを強化し、事業拡大につなげる。配置薬メーカーだったジャパンメディックは平成7年に外用剤事業に参入。液剤の伸びの良さや塗った時のべたつき防止など、配合ノウハウを蓄積し、大手メーカーに対する「提案型OEM」に力を入れてきた。

第一三共ヘルスケアとの間では、既にかゆみ止めの「オイラックス」、きず薬の「マキロン」の両ブランドで軟膏剤やクリーム剤をOEM供給。これまでの開発や生産実績が評価され、新たにパテックスブランドの液剤についても手掛けることになった。

新発売されたのはパテックス「フェルピナクメントールローション」と「フェルピナクメントールゲル」。痛みを起す物質の生成を抑えるフェルピナクを有効成分とし、メントールを配合することで使用感を高めた。患部に素早く塗れるよう、容器形状にも工夫を加えた。

外用剤は経口剤に比べ市場

規模が小さく、大手メーカーは経営効率アップのため、他社との共同開発や製造の外部委託を行うケースが増えている。

ジャパンメディックは第一三共ヘルスケアのほか、久光

製薬にも液体消炎鎮痛剤をOEM供給している。今後、両社以外の医薬品メーカーへの提案活動も進め、21年2月期に24億円だった売上高を、28年2月期に50億円に引き上げたい考え。